



ホームページができました

社会福祉協議会では、4月1日より、ホームページを開設いたしました。
これまで、社協だよりでのみ情報発信を行ってきましたが、今後は、ホームページも活用し、よりタイムリーな情報をお届けしていく予定です。是非ご覧ください。
これに伴い、今年度からの社協だよりの発行は、4・7・10・1月の年4回を予定しております。



スマートフォンから
もご覧いただけます



URL : <https://higashichichibusyakyoo.or.jp/>

今年度の社協事業の募集等は、ホームページ・タブレット等でお知らせします

社会福祉協議会では今年度、各事業のご協力をお願いや募集案内を下記の通り行います。

時 期	事 業 名
6月頃	金婚祝い事業募集
7月頃	日本赤十字社会員募集
8月頃	社会福祉協議会員募集
11月頃	赤い羽根・歳末たすけあい募金

詳細はホームページ及び防災タブレットで、ご案内させていただきます。

令和7年度 東秩父村社会福祉協議会事業別当初予算額(支出)

単位：千円

サービス区分	現年度当初予算額	前年度当初予算額	増 減
法人運営事業	22,475	28,089	△5,614
福祉資金貸付事業	239	350	△111
共同募金配分金事業	686	720	△34
福祉サービス利用援助事業	32	35	△3
ホームヘルパー派遣事業	11,511	10,526	985
居宅介護支援事業	7,033	6,826	207
シルバー人材センター事業	6,477	6,362	115
固定資産取得支出	0	1,275	△1,275
その他の活動による支出	1,915	1,869	46
合 計	50,368	56,052	△5,684

お世話になりました



社会福祉協議会常務理事 柴原 正

令和3年4月より社会福祉協議会にお世話になり4年間が過ぎました。社協では、シルバー人材センターの立上げを始め、社協中期計画の策定、民生委員さんとの懇談会の開催や社協だよりの発行等を行ってまいりました。

この間関係団体の皆様、シルバー人材センターの会員の皆様やご利用の皆様、社協サービス利用者の皆様等大変多くの方にお世話になりました。

中でもシルバー人材センター会員の皆様には、会員それぞれの技能で、機械除草やチェーンソー作業、更には行政からの依頼により各ステーションへのごみかご設置・撤去業務まで取組んでいただきました。お陰様で今日の安定した運営に繋がっておりますことに、心からお礼申し上げます。

社会福祉協議会では、昨年度作成の第2期中期計画において、今後の事業実施において住民の皆様にも係わっていただきながら事業が展開できるような取組や、万が一の災害に備えて災害ボランティアの受入体制についても構築できるよう取組むこととしています。今後とも社協事業にご協力をお願い致します。大変お世話になりました。(常務理事の退職に伴い、社協職員は1名減となります。)

令和6年度戦没者追悼式を挙行

令和6年度の東秩父村戦没者追悼式は、令和7年3月18日にコミュニティセンターを会場に、秩父郡遺族連合会長川田伊佐男様、東秩父村議会議長渡邊均様、同副議長の野口勝則様のご出席をいただき、東秩父村遺族会員30名の出席により開催されました。

令和7年は、終戦から80年という節目の年ということもあり、あらためて過去の戦災を振り返り、その記憶を心に刻む意義深い式典となりました。



ボランティア活動保険のご案内

令和7年度ボランティア活動保険の受付を開始しています。

保険期間は令和7年4月1日から令和8年3月31日です。

年度途中の申込もできますが、その場合でも、保険の終期は変わりません。

【掛け金】

※基本プラン…350円

※天災・地震補償プラン…500円

詳細は担当(須賀)までお問い合わせください。

シルバー人材センター入会説明会は

4月10日(木)午前10時より コミュニティセンターで行います。今後も毎月第2木曜日にコミュニティセンターで行いますので、人権情報カレンダー等でご確認ください。

たより雑感

春のお彼岸に入り各地で桜の開花便りが聞こえてくるようになってきました。これから東秩父村でも花に癒される日々が待っています。開花に合わせ村内を散策するのもいいと思います。

社協では彼岸に合わせて3月18日に戦没者追悼式を挙行し、先の大戦で亡くなられた223柱の御霊の安らかなることをお祈りしました。その追悼の言葉の中に、現在の世界中で起こっている戦争や紛争等が一刻も早く収束を見せ、世界中で平和な日々が送られることを願うという内容が多く聞かれました。

人間は、その考え方が人により異なりますが、社会を形成する中では、個人の考えが最も正しいと、個人の主張を強く出し続けることで争いが始まります。どんな時でも相手の主張を聞き、自分の主張との違いを確認し、その溝をうめる努力が、社会に生きる人として必要なことなのではないでしょうか。